

米国、労働市場の回復ペースは鈍化

ポイント① 就業者数の伸びは鈍化

10月8日に発表された9月の米雇用統計では、非農業部門就業者数が前月比で19.4万人増加と市場予想の50万人増を大きく下回った一方、失業率は4.8%と前月の5.2%から低下しました。就業者数は2か月連続で市場予想を下回りましたが、9月は政府部門の就業者数が学校関連中心に減少した影響が色濃く出たようであり、労働市場の需給はタイト化している可能性があります。

ポイント② 企業は依然として人手不足

分野別にみると、上述した政府部門が12.3万人減となったほか、レジャー関連は7.4万人増と8月の3.8万人増よりは回復したものの7月までの数十万人増のペースからは大きく鈍化しています。新型コロナウイルスの新規感染者数は減少傾向にあるものの、感染を恐れてか対人サービスへの労働者の戻りが鈍く、労働参加率も61.6%と8月比で低下しており、コロナ前の63%前後からは程遠い水準です。一方、9月の米ISM（サプライマネジメント協会）非製造業景況感指数は改善しており、人手不足は続いている可能性があります。

ポイント③ 量的緩和の縮小開始決定は11月か

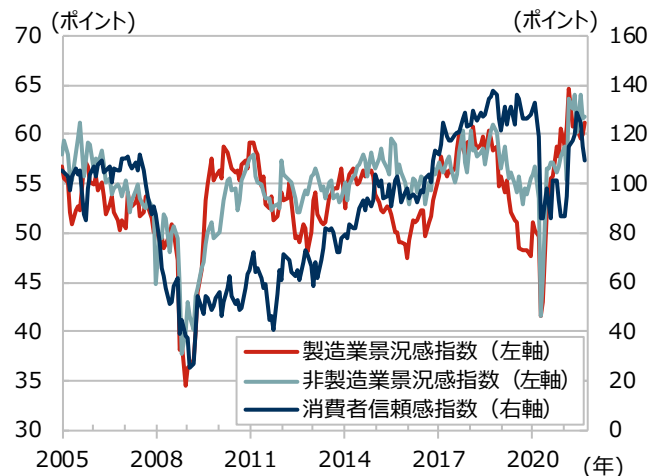
9月の雇用統計を受け、米国株の主要3指数はやや下落しました。一方、労働需給のタイト化や原油相場高騰に伴うインフレへの警戒から、米10年債利回りは1.61%に上昇しました。景気回復は続いており、このところの雇用回復の鈍さが景気以外の要因だとすれば、FRB（米連邦準備制度理事会）が11月に量的緩和縮小開始を決定する可能性は引き続き高いと見えています。

米国の失業率と非農業部門就業者数

	失業率 (%)	労働参加率 (%)	非農業部門就業者数 (万人)	
			総数	前月比増減
2020年				
9月	7.8	61.4	14,187	71.6
10月	6.9	61.6	14,255	68.0
11月	6.7	61.5	14,281	26.4
12月	6.7	61.5	14,250	-30.6
2021年				
1月	6.3	61.4	14,274	23.3
2月	6.2	61.4	14,327	53.6
3月	6.0	61.5	14,406	78.5
4月	6.1	61.7	14,433	26.9
5月	5.8	61.6	14,494	61.4
6月	5.9	61.6	14,590	96.2
7月	5.4	61.7	14,699	109.1
8月	5.2	61.7	14,736	36.6
9月	4.8	61.6	14,755	19.4

(注) 労働参加率 = 労働人口 / 生産年齢人口
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

米ISM景況感指数と コンファレンスボード消費者信頼感指数



期間：2005年1月～2021年9月、月次
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

重要 イベント

- 10月13日 米消費者物価指数 (9月)
- 10月15日 米小売売上高 (9月)